

第7章 駒林遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高 12 ～ 15 m 前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北 300 m、東西 800 m の範囲であったが、2002 年から 2004 年に行った駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大溝を検出した南北 160m、東西 80m の範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として 2004 年 3 月に追加した。第 3 地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺 140 ～ 160m の台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008 年 2 月に遺跡範囲の変更増補を行った。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ部分的に畑が残っている。

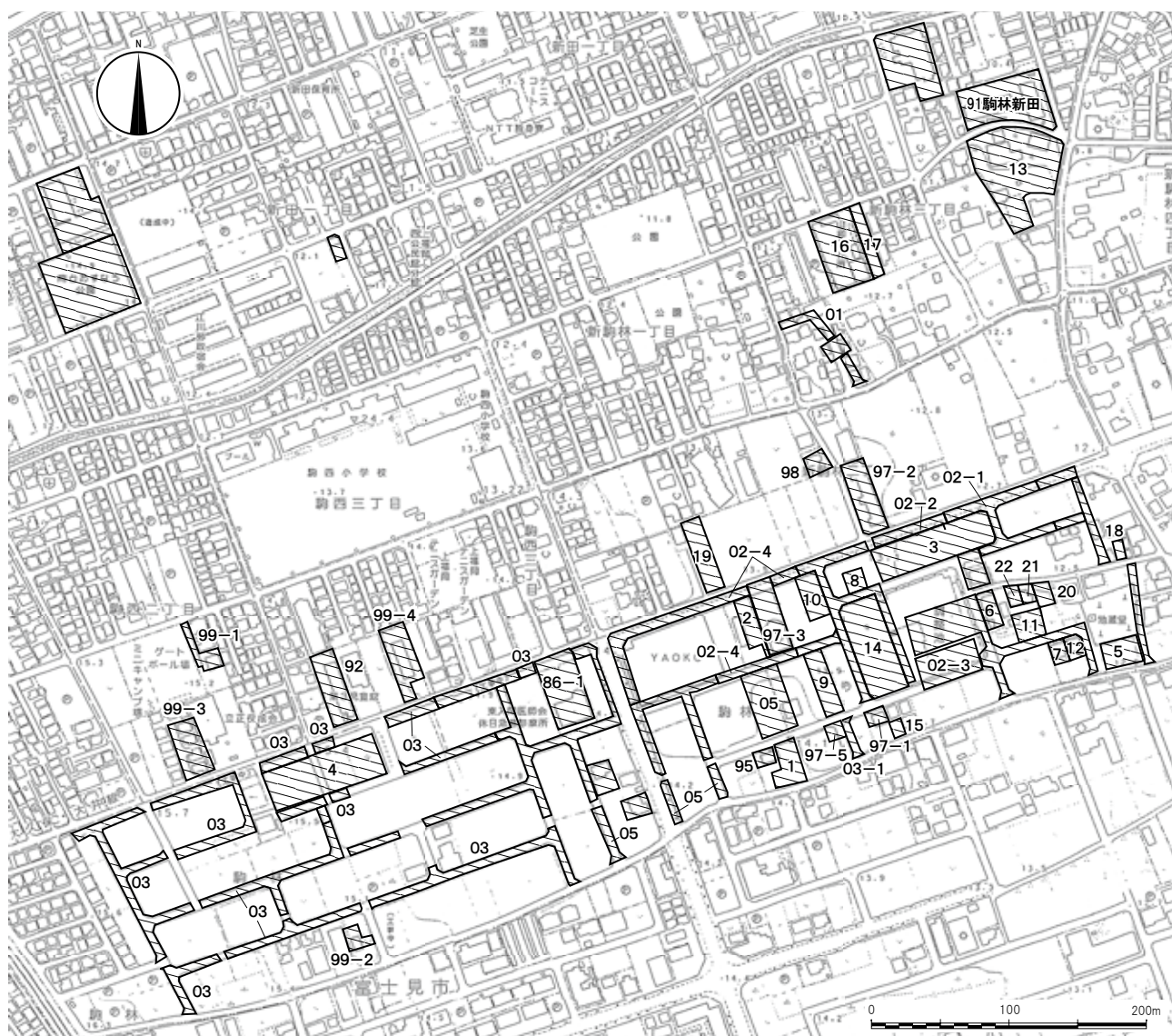
周辺の遺跡は、北側に葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓、東側に地下式坑を検出した駒林新田前遺跡、500m 下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稲荷久保北遺跡がある。2002 年以降の試掘調査の結果、幅 5 m、深さ 2 m の大溝や茶毘跡、縄文時代の集石土坑等を検出する。

II 駒林遺跡第 11 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が 2010 年 3 月 1 日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年 4 月 12 日から 21 日まで、幅約 1



第 39 図 駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

VI 駒林遺跡第 15 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が 2010 年 12 月 28 日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

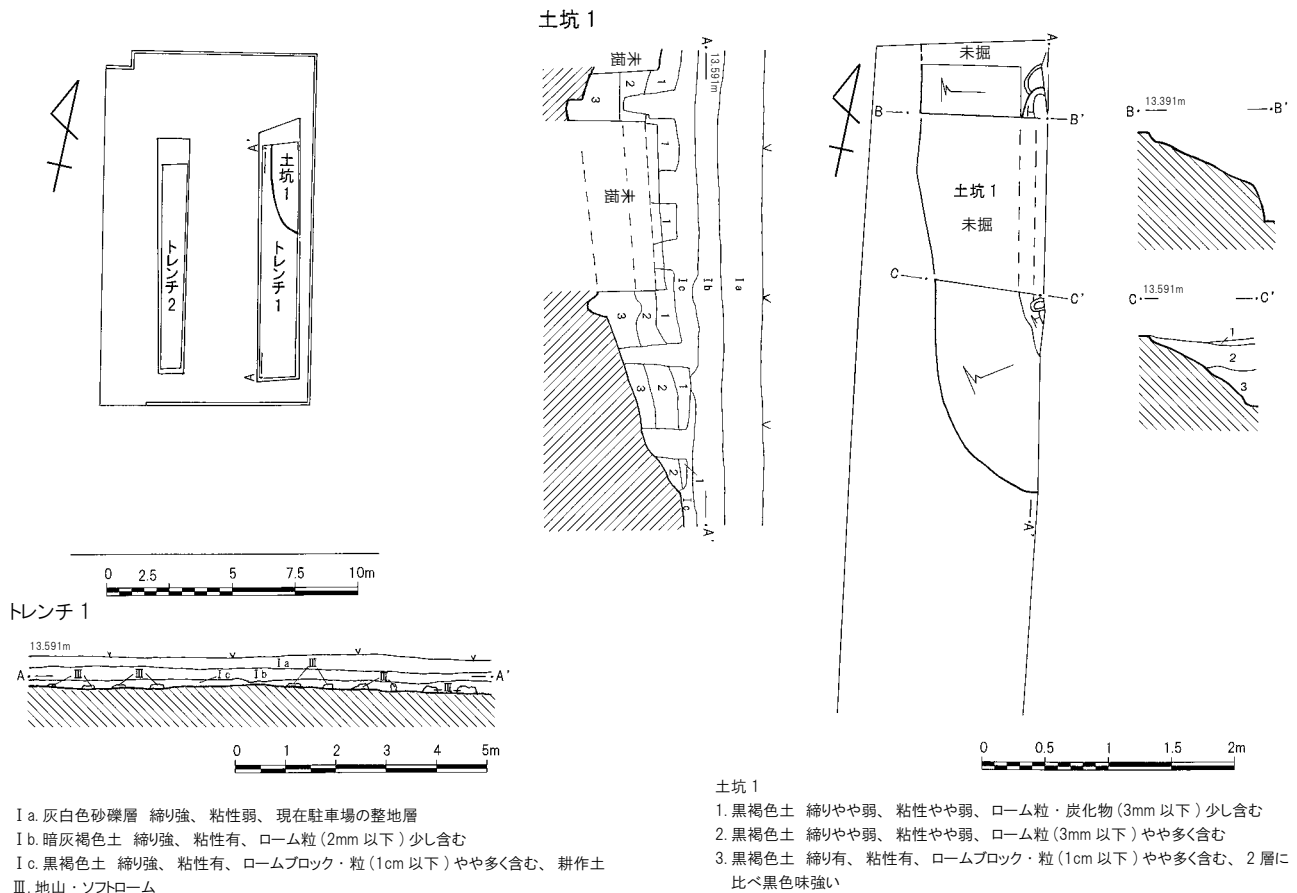
試掘調査は 2011 年 2 月 16 日から 17 日に、幅約 1 m と 1.5 m のトレンチを 1 本ずつ設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構らしき覆土を検出したので確認した結果、土坑もしくは溝であった。遺構確認面までの深さは約 70 cm であり、30

cm の保護層が確保できるため、遺構保存を行うこととした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

①土坑 1

調査区北西部に位置する。北と東は調査区域外のため平面形態は不明だが、端部は楕円形を呈する。溝の可能性もある。検出した上端規模南北 357 cm × 東西 103 cm、下端 182 cm、確認面からの深さ 92 cm である。出土遺物はないが、時期はおそらく中世以降。



第 43 図 駒林遺跡第 15 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、土坑 (1/60)



駒林遺跡第 13 地点全景



駒林遺跡第 13 地点ピット群



駒林遺跡第 13 地点土坑 1



駒林遺跡第 13 地点土坑 2



駒林遺跡第 14 地点全景



駒林遺跡第 14 地点土坑 1



駒林遺跡第 15 地点土坑 1



駒林遺跡第 15 地点調査風景